
方城時雨の奇妙でイカれた学園生活

水面出

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

方城時雨の奇妙でイカれた学園生活

【Nコード】

N9012X

【作者名】

水面出

【あらすじ】

中3のある日方城時雨の元に届いたとある学園の入学許可通知。それは波乱に満ちた学園生活の始まりの合図だった・・・

ブログ 入学許可通知 来る！（前書き）

はい！始めさせていただきます！初の小説です！まだまだ未熟ですが、暇があったらどうぞ読んでください！

ブローグ 入学許可通知 来る！

「入学許可通知？俺に？」

「そうだよ」

姉さんからの突然の知らせに？マークな俺。

「え？なんか話が見えて来ないんだけど・・・」

実際訳が分からなかったんだ。そりゃ確かに俺は受験生（高校のな）で、今は10月だ。

はつきり言うつと進路はまだ決まってない。さすがに少し焦っている。と言つても俺の学力なら大体どこでも入れるけどな（えっへん）。

で、話を戻すけど、何で今入学許可通知なんかが来るんだ？

一般入試は2月、推薦入試は1月だ。それにどんなに早く進路が決まっても12月くらいになる筈だ。それなのにまだ希望すら決めてない奴に、しかもこの時期に入学許可通知が来るなんて摩訶不思議極まりないことだ。ぶっちゃけあり得ないだろ。

「姉さん、順を追って説明してくれ。」

「何？姉さんのスリーサイズが聞きたいの？」

誰がそんなこと言つた！？

「もー、時雨つたら・・・でも・・・時雨にだったら教えてあげてもいいよ？」

「興味ない。というか聞いてない」

「むー・・・」

何ほつぺたをふくらましてんだよ・・・

「だから姉さん、何でこんな通知があるのかって聞いてんだよ」
「ポストに入ってた」

当たり前な答えをありがとう。

「時雨く、『姉さん』じゃなくて昔みたいに『小夜お姉ちゃん』
って呼んでほしいな」

「断る。そして俺の質問に答えろ」

少しイライラしてきたわ。

「冷たいなぐでもそこが好き」

頭痛くなってきた・・・

「クールな時雨と・・・あんなことやこんなことを・・・」

あ、もう駄目だこのバカ。

「もういい、とりあえずよこせ」

「あ・・・」

俺は姉さん（バカ）から通知をとった。

「ええと・・・」

【方城時雨殿

貴殿が我が光天寺学園に入学することを許可します。

入学式は4月6日朝9時からです。

学園の場所は地図を同封していますのでそれを参考にしてください。
尚、我が学園は全寮制なので当日は必要な荷物を持って登校してください。

それでは会えるのを楽しみにしています。

光天寺学園理事長

湖倉 薊

」

・・・何だこりや・・・

「全・・・寮・・・制・・・？」

あ、なんか姉さんの顔が険しくなってる・・・

「そんな・・・時雨と毎日会えないなんて・・・」
バカ発言3秒前

2

1

「姉さん死んじゃうよ~~~~~!!」

いつそのこと一回死んでみたらどうだ？

少しはバカが治るかも知れないぞ？

「や〜だ〜！時雨と離ればなれになるなんて〜！姉さんおしまいだよ〜！この世の終わりだよ〜！」

大げさ過ぎだ・・・

それにしても・・・

光天寺学園・・・ね・・・

聞いたことない学校だが・・・

他に特に行きたいところがあるわけでもないし・・・

なんか面白いことありそうな感じだし・・・

よし・・・！

行ってみつか！！

ブログ 入学許可通知 来る！（後書き）

はい！ブログ終了です。次回は人物紹介をさせていただきます。

人物紹介 Part 1（前書き）

どうも。今回は人物紹介です。といっても二人だけですが・・・

人物紹介 Part 1

人物紹介

名前：方城時雨

性別：男

身長：171.5?

血液型：A型

誕生日：9月5日

本作の主人公

髪は黒で短い。

両親は10に亡くなっており、現在は姉と一緒に暮らしている。

基本的な性格は面倒くさがり屋で問題に巻き込まれることが嫌い。

だが自分の大切なものを侮辱されたり傷つけられたりすると感情を押さえられなくなる。

自己中ではないが他人の都合もあまり考えない。

ルックスは一言で言ってしまうえば超イケメン。

さらに頭脳は天才的に良いし運動神経も並みのレベルではない。
そのため小・中共に異性にモテていた。

ただ本人は恋愛感情には非常に疎く、好意を寄せられても全く気付

かない程鈍い。
いわゆる唐変木。

好きなものは魚介類、漫画、ゲーム、面白いこと。

肉類、野菜類も普通に食べるが魚介類はそれらの10倍は多く食べる程好きである。

漫画は約1000冊

ゲームは約100本持っている。

面白いことが好きなのは単純に面白いからである。

嫌いなものは面倒くさいこと、芳香剤の匂い、ミョウガ。

面倒くさいことは前述の通り。

芳香剤は人工的に加工された匂いが嫌いらしい。

ミョウガはなんか好きになれないらしい。

姉の小夜に関してはバカでブラコンどうしようもない姉だと思っているが、両親が亡くなってからいつも一緒に居てくれたのは小夜なのでそこは感謝している。

小夜がピンチの時は助けたり、料理を作ったり、世話を焼い

たり、色々してやってる。

なんだかんだ言ってもやっぱり小夜は大切な存在だと思っている（
本人はそういう事は話したがないが）

趣味は料理。

その腕前はプロをはるかに越えている。

レパートリーは500種類以上あるらしい。

光天寺学園から入学許可通知が来てそこに入学することを決めた。

これから何が起こっていくのやら・・・

名前：方城小夜

性別：女

身長：161.1？

血液型：A型

誕生日：7月13日

時雨の姉。

現在は大学1年生。

超がつくブラコン。

夜中にこっそり時雨のベッドに入り込んできたり

ところ構わず時雨に抱きついてきたり

一緒にお風呂に入ろうとしてきたり

さらには友達に

「彼氏いるの？」と聞かれた時に、

「時雨〜！」と答えたり

最早ブラコンのレベルを越えているかもしれない。

だがそれは時雨を誰よりも大切にしている（少々やり過ぎだが）からこそやっているのだ（というかそう信じたい）。

頭は時雨程じゃないが良い方である。

ちなみに現在通っている大学は国立六桜大学。

選んだ理由は講義の短さ。

バイトをするためだ。生活費は資産家の叔父から月20〜30万程送られてくるが、それだけだとちょっと足りない為である。

運動は苦手である。

容姿は普通に美人である。

好きなものはもちろん時雨。

それと時雨の好きなものも好き。

嫌いなものは時雨に敵対する奴と氣にくわない奴。

前者はまだ良いとして、後者は完全に私情。

体のラインは良い感じである。

出てるところはちゃんと出てるし、しまっているところはきちんとしまっている。

時雨が全寮制の学校に入る事になったとき駄々をこねた。

今回はこの二人で終了です。

人物紹介 Part 1（後書き）

はい、今回は終わりです。

次回予告

時間の流れは速く・・・入学の日になった・・・
そこで待ち受けていたのは・・・！

次回

入学式とクラス

e p 1 入学とクラス（前書き）

第一話です。ちょっと文章おかしいところあるかもしれませんが、ご勘弁を。私の文章力ではこれがげんかいです・・・

ep1 入学とクラス

「ここ・・・か・・・」

俺は通知に入っていた地図を頼りに来た。

「結構でかいんだな・・・」

現在日時

4月6日9時

場所は光天寺学園（だっけ？）正門前。

時の流れは速いもんだな・・・

あの通知がきてから

俺は残りの中学生生活をエンジョイした。

そしてそのまま普通に卒業と・・・

結構名残惜しかったな・・・

そんでもって、春休みの間に色々準備したな。

制服買ったり・・・

ってか光天寺学園（だっけ？）って制服の種類半端ねえな・・・軽
く15種類以上あったぞ・・・

しかも改造自由だし・・・

ま、俺は面倒くさいから改造なんざしないけどな。

それに校則も見ただけど・・・

——染髪、アクセサリゲーム、漫画、バイトあり。

まあここまでは良いよな？だけど・・・

——不純異性交遊あり

おいおい・・・

不純って言っちゃってるよ・・・

——いじめあり

あっちゃ駄目だろ！？

——援助交際あり

駄目だ駄目だ駄目だ——！！！！！！

——以上の行為は問題なしとする

問題ありすぎだろ！？

どこに援助交際^{エンコー}OKする高校があるんだよ！？

——尚、この校則にはツッコミ所満載だともわれますが、そこはツッコまないでください

ツッコミたくなるっての！

てかこんなこと書くんならツッコミ所をなくせっての！

・・・っと、脱線してきたたな。話を戻そう。

ここに入学する事になった時、姉さんが超駄々をこねたが、何とかおさめた。

ったく・・・本当にバカな姉だ・・・

さて、この光天寺学園であつてゐるよなは全寮制だ。

俺はしっかり必要なものを持ってきている。

衣類に洗面用具、携帯にPSP、音楽プレイヤー、パソコンのUSBメモリ、その他諸々。

これで退屈になることはないな、多分。

ガヤガヤ・・・

「着いたねー光天寺学園」

「よーし！カッコいい彼氏つくるぞー！」

おお？何か色々やつてる内に他の
新入生もちらほら来てるみたいだな。

んじゃ、俺も行くか。

「ちよつとちよつと！あの人超カツコよくない!？」

「本当！すごいイケメン！」

「ああいう人と付き合ってみたいな〜！」

・・・何かやたらと視線を感じるんだけど・・・

「ああ！あのお方を私のモノにしたい！」

今危険な発言がきこえたぞ・・・!？

「シャラッホー！ー！ーい！！！」

「ゴニョゴニョゴニョゴニョ・・・」

・・・よくよく見たら・・・変な奴らが多いな・・・
俺人の事言えねえけどお・・・!!？

「きゃっ・・・」

誰かがぶつかって来た・・・あ、しりもちついちまってる。
しゃーねえ。

「悪い、大丈夫か？」

一応手を差しのべてみる。

「いえ・・・すみませ・・・」

何だ？何か動きが止まったような・・・

・・・ん？

何か見覚えがあるようなないような・・・

そんな風に思ってたら放送がなった。

《連絡します。新入生の皆さんは自分のクラスを確認の後、体育館ホールへ行ってください》

「あ、行かなきゃ・・・」

あ、走って行っちゃったよ。

何か見たことある顔だと思っただがな・・・

思い出せねえ。

ま、いいか。

俺もちゃっちゃと体育館ホールってとこに行かなきゃな。

SIDE???

どうしよう・・・

まさか一緒の高校だなんて・・・

私の事、覚えてるかなあ・・・

5年もあつてないしなあ・・・

でも・・・すごくカッコよくなってたな・・・

・
・
・

は！？

何を考えてたの私！？

・・・でも、もし覚えててくれてたら・・・

勇気出して・・・話しかけてみようかな・・・

S I D E 時雨

ああ・・・やっぱり入学式だの卒業式だの形式的なものは疲れる・・・

次に、理事長からお話をいただきます

・・・そういえば・・・理事長から直接来たんだよな。・・・あ、
当たり前的事だったな。

とりあえずどんな人かは気になるな。

段の上にあがったのは・・・見た目10歳くらいの女の子だった。

「理事長の湖倉 薊なのじゃ！」

・・・へ？

「入学おめでとうなのじゃ！」

子供・・・だよな・・・
何で・・・？

「こんな子供が理事長で皆びっくりしてると思つたのじゃ」

うん、当然だろ。

「ちなみに歳は10歳なのじゃ！」

うん、見た目のまんま。

やっぱりこの学園、ツッコミ所満載だな。

「皆楽しい学園生活を送るのじゃ！」

それは大分前途多難だな。

「これで終わるのじゃ！早くしないと見たいアニメが始まっちゃうのじゃ！」

おいおい・・・子供でも仮にも理事長だろうが・・・
んな適当でいいのかよ・・・？

ありがとうございました

あ．．．いいんだ．．．

その後、入学式は滞りなく終了した。

何だっただんだあの理事長は．．．

あ、そういえば俺まだ自分のクラス見てねえや。

俺の名前は．．．

えゝと．．．2組でもないし3組でもない．．．って事は、

あつた

【方城時雨 1 年 1 組】

1 組か。

何か俺小学校の時も中学の時もずっと 1 組だった気がするんだけど・
・

1 という数字に好かれてんのか？

まあいいや

とにかく、教室に行くとしますか。

俺は教室がある方へ歩き始めた

ep1 入学とクラス（後書き）

次回予告

前途多難な俺の高校生活

そんな中 誰かが話しかけてきた

次回 再会と担任

あんまし変わってないもんだな

e p 2 再会と担任（前書き）

第2話です。今回はちょっと短いです。

ep2 再会と担任

1年1組・・・ここか・・・

俺は1年1組の教室に来た。

おお、結構広いな。

机の数が32個ってことは、生徒人数も同じだな。

エアコンもあるし、薄型テレビもあるぞ・・・!?

つてか机よく見たらパソコン備え付けのシステムデスクじゃねえか!?

なんかお菓子も大量にあるし・・・
設備いいな・・・!

それで、俺の席は・・・ボードに書いてあるな。

えーと、あつたあつた。あそこか。

俺は右から三番目の一番前に座った。

・・・真ん中じゃねえか・・・

すごい目立つんだけど・・・

「あの人カッコいい！」

「このクラスで良かった！」

また視線が集まってるような・・・

何でだ？

(→鈍い)

SIDE ???

うう・・・どうしよう・・・

(少女は迷っていた)

話しかけようかな・・・
でも・・・

うん・・・！

勇気出して・・・！

「ね、ねえ・・・」

私は時雨に話しかけた。

S I D E 時雨

お？話しかけられた・・・って、朝会った奴じゃねえか。

・・・ん！？

やっぱり・・・見たことある・・・

「あの・・・」

この声も聞き覚えがある・・・

「私の事・・・覚えてる・・・？」

・・・右目の下の泣き黒子・・・

「出雲・・・か・・・？」
「・・・！」

うお!?

何か顔がすげえ明るくなったぞ・・・?

SIDE 出雲

覚えててくれた・・・!

私の事、覚えててくれた・・・!

すごい嬉しい・・・!

SIDE 時雨

「その反応、やっぱり出雲なんだよな・・・?」
「うん!」

わー・・・すっげえ嬉しそうだ・・・

でもまさか、出雲と会うとは・・・
5年ぶりか・・・?

「よく覚えてたね!」

「そりやお前、そんな簡単に幼馴染みのことを忘れる訳ねえだろ?」
普通の事だろ?

「うん、うん! そうだね!」

何でこんなに嬉しそうなんだ?

「何あの子!?」

「抜け駆け!?」

いやいや・・・ちがうだろう・・・

「で、お前はこの学園を受験したのか?」

「うん! 頑張つて勉強したんだ! 何回も死にそうになったけど・・・」

「そっすえば出雲は大の勉強嫌いだったな。」

「時雨は頭良いからそこところは楽勝だったよね?」

「いや、俺は受験してねえ」

事実だ。

「じゃあ何でここにいるの・・・!?」

最もな質問だな。

「いきなり入学許可通知が来た」

「え・・・?」

そして最もな反応だ。

5年前と変わらず分かりやすいなこいつは。

「・・・」

そんな「信じられない」みたいな顔されても困るんだが・・・

「時雨・・・」

なんか真剣な顔になったぞ・・・

「私気づいたよ・・・」「何をだ？」

「世界って平等じゃないね！」

うん・・・まあ、そうかもな・・・

そんな時にチャイムがなった。

「あ！もう席につかないと・・・」
動くの早っ！

H R

さあ、担任はどんな人だ？

俺がそんな事を思っていると教室のドアが開いた。

「皆さん席についてますか？」

意外と普通の人だな。見た目も「優しそうな先生」って感じだな。

「今日から１年間皆さんの担任を務めさせていただきます。空巻菜奈です。」

ボードに名前が表示された。

「空巻 菜奈」・・・で、「からまき なな」ね・・・。
「1年間よろしく願います」
おお、お辞儀の仕方がものすごく深々としている・・・

ま、普通な先生で良かった・・・
「あと、皆さんに一つお伝えしておきます。私の授業でなにか問題を起こしたら容赦なく血祭りにするので・・・」
・・・!?

「覚悟しておいてください」(笑顔で)
今の一言で教室が静まりかえったぞ・・・!?

やっぱり普通じゃねえ!

「天崎さん。言ったそばからボケつとしないでください。血祭りにしますよ?」

「す、すみません!」

出雲が注意されたか。なにボケつとしてたんだ・・・

そつえば出雲の苗字って「天崎」って言うんだっけな。軽く忘れてた。

「今日は特に連絡事項はありません。HRを終わります」

「時雨!」

出雲が泣きついてきた。こいつは昔から俺になにかと引っ付いてくる。

何でだ？

(→鈍い 本日2度目www)

「あの先生怖いよ・・・」
気持ちにはわかる。だが俺に何をしろと？

「うつゝ・・・」

涙目になってる・・・

「出雲」

「・・・何・・・？」

「

「いい加減俺に抱き着くのはやめろ」

そつ。出雲はさっきから俺に抱き着いている。

「何で・・・？」

「逆に何で俺に抱き着く？」

「・・・」

「何で黙るんだ？」

「うつゝ・・・」

なんか唸ってる・・・

「唐変木・・・」

唐変木・・・

何でだ？

(→鈍過ぎ 本日3度め)

e p 2 再会と担任（後書き）

次回予告

休み時間に放送で呼び出された。
一体なんの用だ？

次回 特例とお昼

e p 3 特例とお昼（前書き）

更新遅くなってすみません！第3話です！

e p 3 特例とお昼

「それでは今回の授業はこれでおしまいです」

午前の授業終了。そんな難しくなかったな。高校の内容ってこんなもんなか？

さて、出雲のほうをしてみるか。

「・・・・・・・・」

・・・・燃え尽きてる・・・・
頭から煙が吹いているように見えるのは俺の気のせいかな？

なんか憐れだから声かけてやるか。

俺は出雲の席の方に行き

「おい出雲。大丈夫かな？」

「・・・・・・・・」

へんじがない ただのしかばねのようだ

少しふざけてみた。

てかこいつ本当に大丈夫かな？

「おい？出雲？おーい！」

「・・・ぐすつ・・・」

おお、動いた。

「大丈夫かお前？」

「全然大丈夫じゃない・・・」

だろうな・・・

「何であんなにむずかしいの！？鬼なの！？いじめなの！？」

いやいや・・・

「私に死ねって言うてるの！？」

「お前な・・・」

行き過ぎだろ・・・

つつかそんなに難しかったか？

「今『そんなに難しかったか？』って思ったでしょ！？」

何・・・！？

こいつ・・・5年の間に読心術を身に付けたのか・・・！？

「言っとくけど読心術なんか身につけてないからね！？」

バカな・・・！？

また心を読んだのか・・・！？

「読んでないよ。なんとなくそう思っただけ」

それにしちゃあ当たり過ぎだろ・・・

「まあ・・・いいか・・・」

「とにかくさ！難し過ぎるよ！これじゃあ私卒業するまえに死んじやうよー！」

「ならもつと勉強すりゃあいいだろう」
「ぐ・・・」

おお、見事に黙った

「そ、それができたら苦労しないよー！」
ああ・・・そう・・・

「よし！もういいや！忘れちゃおうー！」

それでいいのか？

「いいの！」

また心を・・・

「そんな事より、時雨、お昼たべようよー！」

あ、そういえば昼休みか今。

「学食があるから二人で一緒にたべよ？」

「ああ、別にいいぞ」

「やった〜」

何でこんなに嬉しそうなんだ？

SIDE 出雲

やった〜

時雨と一緒にご飯だ〜

久しぶりだな〜

二人で食べるのは。

『時雨〜はい、あ〜ん』

『あ〜ん』

な〜んてやつちやったりして〜！
キヤ〜〜〜！！

連絡します。 1年1組 方城 時雨君、理事長室へ来てください

・・・え？

「なんの用件だ？まあいいか」

え・・・？

「悪い出雲。俺ちよつと行ってくるわ」

「あ・・・」

そう言つて時雨は行っちゃった・・・

ご飯・・・一緒に・・・食べられると思つたのに・・・

『あゝん』できると思つたのに・・・

理事長のバカ・・・

SIDE 時雨

理事長つて最上階にあるのか・・・

ちなみに光天寺学園は6階建てだ。

さて、普通に立派そうな感じだが・・・
中はどうなってるのか・・・

俺は理事長室のドアをノックした。

入っていいのじゃー！

元気いいな・・・

「失礼しまっす」

うーわ・・・なんだこの空間・・・

お菓子のゴミがそこらじゅうに散乱してるし・・・

CDにDVD、それに漫画もあちこちに散らばってるよ・・・

汚な過ぎだろ・・・

呼び出すんなら少しくらい片付けとけよ・・・

「よくきたのじゃ!」

ソファーに座ってるけど・・・なんかソファーがものすごくでかく見えるんだけど・・・

「呼び出したのはちょっと話があるからなのじゃ」

立つとさらに小さく見えるな・・・

140ないなこの高さじゃ・・・

「話ってなんすか?」

「簡単なことなのじゃ!」

内容は?

「ホント誰でも分かるのじゃ!」

で、内容は?

「ホントにホントに分かりやすいのじゃ!」

言えよ早く!

「方城、お前はほかのせいとは違つのは気付いてるのじゃ?」

他の生徒と・・・

「入学のことすか」

「そうなのじゃ！」

うわ、すつげえビシツと指差された。

「他のせいとはちゃんとゆうがくしけんを受けたのに・・・お前だけ違ったのじゃ！」

「そうっすねいきなり入学許可通知きたし・・・」

それは確かに俺も気になるな。

「何故そうなのか、聞きたいのじゃ？」

「ああ、まあ・・・」

「いいのじゃ！教えてやるのじゃ！」

さつきからこの人上から目線過ぎじゃね・・・？

「お前は特例なのじゃ！」

特例・・・？

「どうして特例なんすか？」

「くじで決まったのじゃ！」

・・・・・・は？

「どういことっすか、それ・・・？」

「どうもこうも、ただそれだけなのじゃ！ 敢えて言うならウチの気まぐれなのじゃ！」

・・・・・・

「アホかあああああああ！！！」

「はにゃあ！？」

俺の声はきつと学園中に響いただろう。

「そんな大声で叫ばないでほしいのじゃ・・・」

「これが叫ばずにいられるかあ！！！」

「あう・・・・」

「あんたバカか！？バカなのか！？くじで決めたってテキトウ過ぎ
だろ！！真面目に理事長やってんのか！？てか何であんたみたいな
子供が理事長なんだよ！？普通あり得ないだろうが！？」

「そ．．．それもまた特例で．．．」

特例．．．？

「特例って言えばなんでも許されると思ってんのか！？ああ！？」

「あうう．．．」

「てかこの部屋汚な過ぎんだよ！！他人の事呼ぶんならもつと片付
けとけ！！タコ！！」

「た．．．たこ．．．」

「なんか背小せえし！！変なしゃべり方だし！！上から目線だし！
！ふざけんなあ！！このバカ理事長があ！！！！」

言ってやったぜ．．．
言いたい事全部．．．
どうだこら！

「う．．．」

ん？なんか涙目に．．．

「うええええええええええん！」

あ
・
・
・

泣い
ちっ
た・
・
・

「そんなに言わなくてもお．．．そんなに言わなくてもお．．．！
ふえええええん．．．！」

あー……どうしたらいいんだこりゃ……

「理事長……？」

「うええええええええん！」

< . . !

泣き止みそうにねえ……！

こうなったら・・・！

「理事長！」

「うえええええええん！」

「オレンジジュースあげるから泣き止んでください！」

「・・・」(ピタ)

泣き止んだー！！

本当に聞くとは思わなかったー！！！！

「ホ……ホント……?」

・・・はっ・・・

シグレはたおれた

なんだこの涙目&上目遣いのコンボは・・・!?

俺はロリコンだったのか・・・!?

いや・・・これはロリコンじゃなくても・・・

こうかはばつぐんだ!!

「まあ・・・オレンジジュースくれるなら・・・許してやるのじゃ・・・!」

お、元に戻った。

まあとにかく泣き止んでくれて良かった・・・

「で、話はそれだけなんすか？」

「そ、そうなのじゃ!!」

「じゃ、俺戻るんで」

「お、オレンジジュースは・・・？」

・・・そんな不安そうな目で見るなあああ・・・！
それに涙目も禁止だあ！

「ちゃんと後でもってきますよ」
「・・・！」

そこで満面の笑みを浮かべるなあああああああ！！！！

SIDE 出雲

私は一人で焼き魚定食を食べていた

寂しいよ・・・

一人のご飯は・・・

「よお、おそくなつたな」

「はひゃあああああああ！？」

「おい、いきなりでかい声出すなよ・・・」

え！？いつの間に時雨が！？

「焼き魚定食か。うまそうだな」

は！

これは・・・チャンス！？

「た、食べる・・・！？」

「へ？」

よし・・・！

「は・・・はい！あゝん・・・！」

私は焼き魚をひとつまみ時雨の口元にもっていった。

「な・・・おいおい・・・はずかしくねえか・・・？」

「いいから！」

「じゃあ・・・あむ・・・」

やった――――！！！！

『あゝん』成功――！！！！

は・・・！

し・・・しかもこれって・・・

か・・・かかかか・・・間接キス・・・！？

あ・・・はわ・・・はわわわわ・・・！

「はにゃあ・・・」

「な・・・！？おい！大丈夫かよ！？おい！」

S I D E 時雨

出雲がいきなり気絶した。

何でだ・・・？

e p 3 特例とお昼（後書き）

次回予告

部屋割りが決まったらしいな 俺の部屋は一体どこになるのか・

・

それにあのバカ姉と出雲が・・・

次回 部屋割りとメール

全く・・・いい加減仲良くなれっての・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9012x/>

方城時雨の奇妙でイカれた学園生活

2011年10月31日02時21分発行